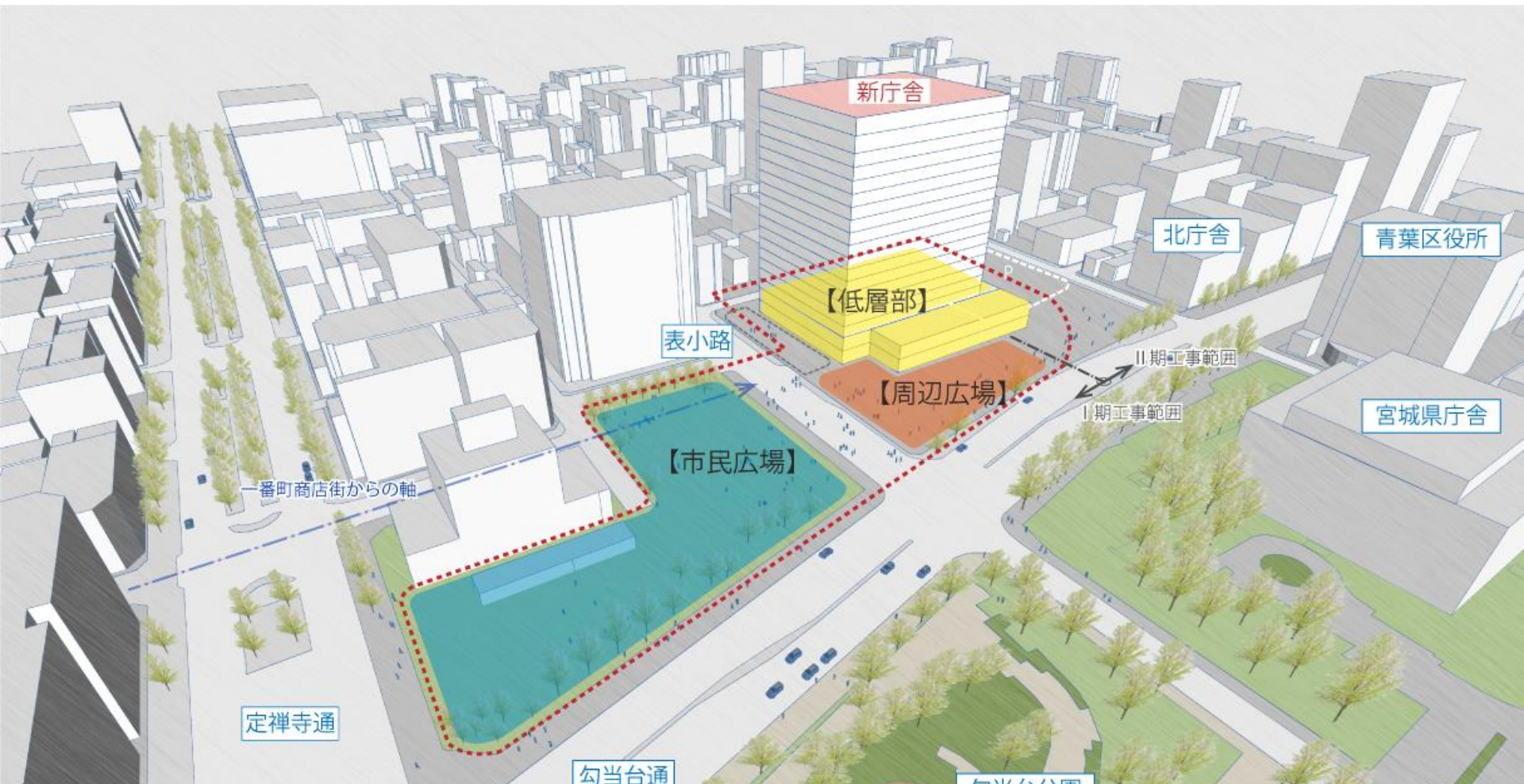


【検討会プレゼンテーション】

「プレヒアリング結果報告・導入機能(案)」

令和3年7月



1. 新本庁舎低層部等の機能方針

- ✓ 仙台市役所本庁舎建替基本計画では、新本庁舎が目指すべき3つの方向性として、「協創・共創の場で市政課題を解く」、「多彩な協働の杜をつくる」、「杜の都・防災環境都市を発信する」を掲げる。
- ✓ 特に新本庁舎低層部等では、「①都市の新たな価値を生むための市庁舎」及び「②都市に開かれた市庁舎」を目指し、下表の機能(例)を整理した。

◎新本庁舎低層部・敷地内広場等の整備の方向性について

市庁舎のあり方	整備の方向性
①都市の新たな価値を生むための市庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・企業・行政が連携しながら知的創造を行い、新たな価値と交流を育む場 ・仙台市や東北6県に関する情報発信を行い、東北の結節点として都市の魅力を伝える場
②都市に開かれた市庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・定禅寺通及び市民広場からのまちの賑わいの連続性に資する場 ・一番町や中心部商店街からの商業機能の連続性に資する場 ・周辺オフィスで働く人や市民が集い、安らぐ憩いの場

◎新本庁舎低層部等で整備する機能(例)

市民・事業者が頻繁に訪れる部署

総合案内

ロビー空間

市民協働・交流

シティプロモーション・情報発信

イベント・ギャラリー

観光交流

飲食・物販

金融機関等

2. 低層部エリアの導入機能におけるコンセプト(案)

- ✓ 従来は相談等の限定的な庁舎利用。
- ✓ 将来の姿は、多くの市民等が日常的に利用するとともに、サービス提供においても、周辺エリアや市内の**多くの市民・企業等が連携・参画して柔軟にコンテンツを提供できるオープンプラットフォーム**を想定。
- ✓ 低層部エリアにおいて市民・企業・行政の連携による知的創造・活動を育成支援(インキュベート)し、広く発信することで、周辺エリア(市民広場、定禅寺通等)にも多様な活動が滲み出すことが期待。

従来の市庁舎

サービス需要側
(限られた市民等)



行政サービス等

相談等限定的な
庁舎利用

【課題】

市民・企業・行政が連携しながら知的創造するには、下記の機能が不足:

- ✓ 市政等に関する積極的な情報の発信機能
- ✓ 行政と市民を繋ぐ訪れやすくするための機能
- ✓ 市民活動、起業等をサポートをする機能 等



サービス提供側
(市職員)

将来の姿:オープン型

サービス需要側
(多様な市民、観光客等)



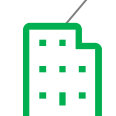
共感型情報発信、
多様なコンテンツの提供

日常的な庁舎利用

新本庁舎低層部のオープンプラットフォーム*
(育成支援、情報発信、協働促進等)

コンテンツの提供

周辺エリア(市民広場、
定禅寺通等)
の利用率向上等



サービス提供側
(市民、周辺の公共施設/商業施設、市職員等)

Concept
多様な協働をインキュベートする場

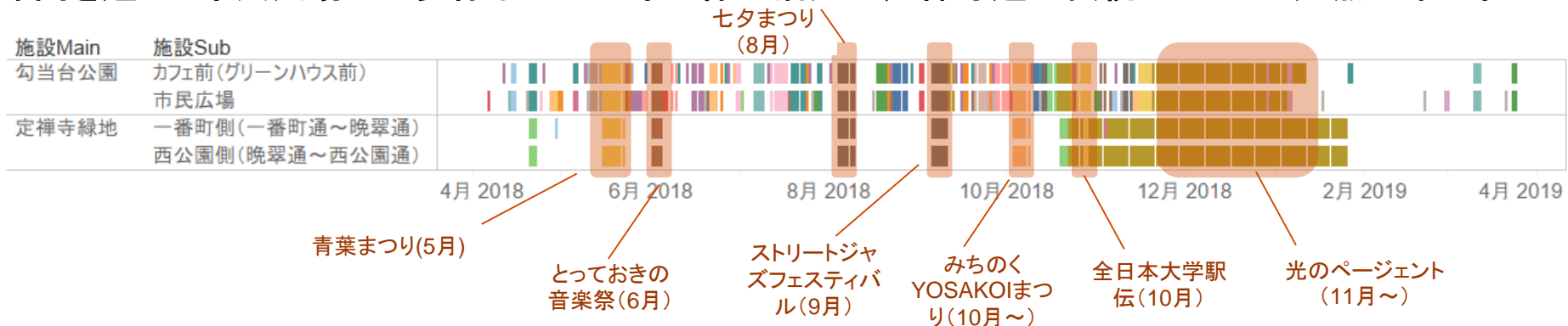
- ✓ 多様な活動やコンテンツ創造など様々な場面において、市民・企業・行政が柔軟に連携・参画。
- ✓ 新しい価値を生むために目指す市民の取り組み等について、目標実現や課題解決をするために、市民・企業・行政が協働したり、必要に応じて行政等が育成支援(インキュベート)を行うなど、共に成長・変化をしていく。

* プラットフォーム: サービス等を提供・運営するために必要となる土台

3. 現在の周辺エリアの利用実態

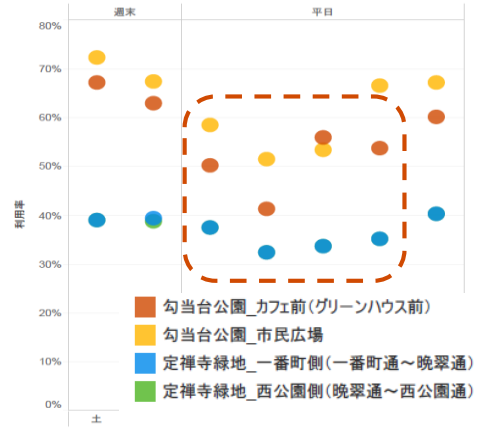
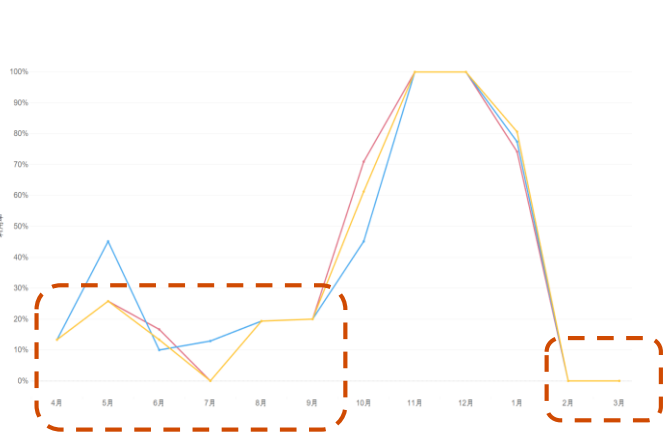
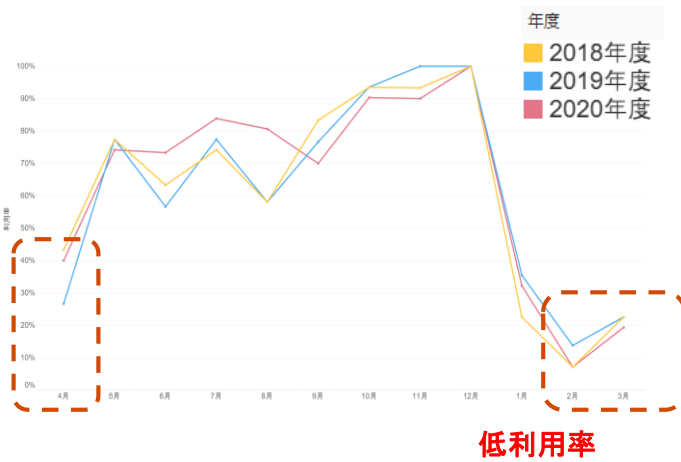
- ✓ 利用実態①: 市民広場でのイベントは多様。一体利用は少なく、2月～4月の利用率は低い。
- ✓ 利用実態②: 定禅寺通の「光のページェント」「七夕まつり」等の伝統的な芸術イベントの開催時に、市民広場等も含め一体で利用される傾向。2月～9月において利用率は低い。
- ✓ 利用実態③: 市民広場、定禅寺通の共通点として平日利用が少ない。

年間を通して市民広場では多様なイベント。一体的活用は定禅寺通の伝統的イベント起点が中心。



2月～4月における利用は少ない(左は市民広場、右は定禅寺通)。

平日の利用も少ない傾向。



4. 市民利用・情報発信機能(案)

- ✓ 上記の利用実態を踏まえ、市内の公共施設/商業施設等にヒアリングをしたところ「皆で”オープン“に課題を検討できる機能」や「市民が関心を持つような新たな技術やアイデア等を発信する機能」や「市民活動や起業等のためのスタートアップ機能や発表する場」等のニーズを確認。
- ✓ 以上より、「市民・企業・行政が連携した知的創造」に向けて、市民・企業・行政が実際に新しいことを経験し、試しながら皆でオープンに課題を検討できる機能を設定。※今後の調査等を通じて機能名称も含めて検証予定。

◎実際に経験し、試しながら皆でオープンに課題を検討できる機能

⇒(仮)で“Lab”と定義

ヒアリング結果を踏まえ、3つの(仮称)Lab機能を検討

- ①社会や地域の課題に対する意識啓発など、提案型イベントの機能 等
(Policy lab)
- ②地域や観光情報などを、様々なメディアを活用して情報発信する機能 等
(Cross Media lab)
- ③研修や共有のワークスペースを利用した仕事や議論ができる空間、飲食・物販の提供等もきっかけに市民が日常的に訪れ、市の政策に触れ・学ぶ機能 等
(Living lab)

「市民・企業・行政が連携した知的創造」、まちの賑わいの「連続性に資する場」へ

5. 基本計画に基づく必要機能と多様な活動例

本庁舎建替基本計画（新本庁舎を目指す3つの方向性）

協創・共創の場で市政課題を解く

- ・市民・議会・行政と一緒に協創・共創できる場となるよう、**多様な市民が集い参画できる庁舎として整備**

市民が集う多彩な協働の杜をつくる

- ・更なるまちの賑わいのため、市民広場等と**一体的な空間となるよう配慮**
- ・市民が集い安らぐ**憩いの場**

杜の都・防災環境都市を発信する

- ・杜の都のアイデンティティ(**伝統**)や防災環境都市の取組み(**経験**)を百年先まで**発信する市庁舎**

3つの方向性実現に向けて必要と考えられる機能・多様な活動（例）

機能分類
(例・仮称)

Policy Lab

- ※市民等が、上記3つの方向性実現のため、自ら考えた実施可能な政策アイデアを出すことができる機能/活動
- ・地域課題等に関する個別相談スペース/活動
 - ・エリアマネジメントやまちづくり団体の活動スペース/活動
 - ・ピッチイベント(社会課題解決・提案型イベント等)、交流会
 - ・起業・企業成長支援セミナー等

Cross Media Lab

- ・消費者参加型のメディアやコンテンツの展示/活動
- ・都市政策に係るパネル・模型展示等

- ・オープン参加の地域イベント
- ・パブリックビューイング
- ・市外訪問者への観光情報提供
- ・市の特産品などを直販するマルシェ等

- ・仙台市らしい生活・芸術文化イベント
- ・仙台市及び東北の歴史や文化等の魅力PRスペース/活動等

Living Lab

- ・市民セミナー
- ・研修会、ワークショップ
- ・コワーキングスペース等

- ・コミュニティサロン等
- ・飲食機能/活動等

- ・市民や職員を含む幅広い世代が利用可能な展示スペース/活動等